

原発のない社会をめざす「グリーンテーブル」 設立趣意書

3.11 東日本大震災に伴う福島原発の事故は「原発安全神話」を根底から崩壊させた。このことにより、「原子力発電に頼るか頼らないかの時代」ではなく、「原子力発電に頼れない時代」であるとの明確な認識を持ち、その覚悟の上に新しい時代づくりを始める勇気が試されていると私たちは考える。

しかし、政治はいまだに「原子力村」という言葉に象徴される「政官業の癒着構造」に明確な政治の意思を示しきれず、原発事故後一年以上が経った今でも 3.11 以降のわが国のかたち」を示す明確な将来ビジョンが描き切れていない。

こうした中であって、すでに地域では、NPO・市民・団体・企業・自治体などが多様なエネルギー自立の取り組みを行い、持続可能な地域づくりに向けた創意工夫が行われている。これらは、低炭素社会づくり、持続可能な社会づくり、地域を元気にする取り組みでもある。結果的に、原発のない社会づくりは、新たな「地域モデル」の取り組みである。

新しい時代を切り開く芽は地域に数多く用意されており、こうした草の根からの地域の意思を新しい国づくりへの確実な流れにしていくために、私たち地方議員は脱原発社会をめざす市民と地方議員によるネットワーク「グリーンテーブル」を、本日、発足させる。

そして、以下の取り組みを進める。

1. 原子力発電に頼らない社会の構築に資する「地或モデル」の検証と政策的支援策の検討・提案・行動
2. 原子力発電所立地地域の地域振興策の検討・提案・行動
3. わが国に導入可能な世界の取り組みの視察・調査・行動
4. 共生社会をめざし、市民ひとり一人が生活の中で取り組む実践例の調査・研究・行動
5. その他、原発のない社会をめざすために必要なこと

福島宣言

ドイツは、環境問題から倫理的に脱原発に転換した。

日本は、脱原発による地域再生、自然との共生、包括社会へ進むべきである。

私たち「グリーンテーブル」は、今日、福島で宣言する。

2012年7月18日

グリーンテーブル賛同者一同